

急性期脳卒中患者へのリハビリテーション提供単位数による ADL 能力向上の違い

1. 研究の対象

令和2年4月1日～令和5年11月30日の間、脳卒中により当院の急性期病棟に入棟された方。

2. 研究目的・方法

2年に1度、診療報酬の改定が行われていますが、令和6年度の診療報酬の改定において、脳卒中で入院された患者に対し、リハビリテーション（リハ）を早期に介入し、提供量を多く担保することが求められました。回復期リハ病棟においては、リハの提供量に応じてADL能力が向上する、特に一日3単位（1時間）以上のリハを提供するとADL能力が向上しやすいと報告されています。しかし、急性期病棟において、リハ提供量とADL能力の関連性は十分に検討されておりません。今回、急性期の脳卒中患者に3単位以上のリハを提供した者と3単位未満の者に分けて、重症度別にリハ効果を検討することを目的としています。

リハビリテーション部では、当院の急性期病棟に入棟し、リハを提供された全ての脳卒中患者に関しデータベースを作成しています。今回の調査では、このデータと診療録、診療記録を用い、分析を行います。

本研究は、倫理審査委員会承認後から令和7年12月31日の間に実施します。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：年齢、疾患名、急性期病棟在棟日数、日常生活活動能力評価のデータ
リハの提供単位数 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：
公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
リハビリテーション部 研究責任者 嶋崎 健一
住 所：群馬県伊勢崎市太田町366
TEL：0270-24-3355 FAX：0270-24-3359

-----以上